

## 【7月7日第54回対策本部会議決定事項(修正「大阪モデル」について)】

- ◆ステージ移行については、指標の目安の到達状況を踏まえつつ、感染状況や医療提供体制の状況、感染拡大の契機も十分に考慮し、専門家の意見を聴取したうえで、対策本部会議で決定する。

### 【「警戒」(黄色信号)の状況】

	警戒解除の目安	10/13	14	15	16	17	18	19	20
病床使用率	7日間連続20%未満	12.9%	12.2%	11.6%	10.5%	10.7%	10.8%	8.3%	7.4%
重症病床使用率	7日間連続20%未満	20.0%	19.1%	18.1%	16.6%	16.6%	15.0%	14.1%	12.5%
	上記全てが目安に達した場合	—	1日目	2日目	3日目	4日目	5日目	6日目	7日目

※病床使用率は、10/5以降、20%を下回っている。



- 新規陽性者数は1日平均73人に減少し、医療提供体制においても「警戒」(黄色信号)解除の目安を満たしたことから、現行の措置解除と合わせて、「警戒」を解除し、緑信号を点灯する。(10月25日適用)  
(前回の「警戒」解除(緑信号点灯)期間:令和2年5月14日~令和2年7月11日)

なお、以下の状況を踏まえ、新規陽性者数等が再び増加傾向となるなど、警戒(黄色信号)の目安に到達する場合は、本部会議を開催し、警戒(黄色信号)へのステージ移行を決定するものとする。

#### 【警戒(黄色信号点灯)の目安】

- ①新規陽性者数(直近1週間の人口10万人あたり15人以上。約189人/日)
  - ②病床使用率20%以上
  - ③重症病床使用率20%以上
- のいずれかが目安に達した場合

#### <現時点の状況>

- 行楽やハロウィンなどのイベントなどによる感染機会の増加が見込まれること(昨年度は、第三波が10/10~発生)。
- 希望者へのワクチン接種がほぼ完了する11月末までは、感染急拡大の防止の徹底が必要であること。
- アドバイザーボードにおいて、「緊急事態措置等の解除後、夜間の滞留人口の増加が顕著に現れており、一部の地域では実効再生産数が増加する時期もあり、感染者数の減少速度鈍化や下げ止まりが懸念される」との評価がなされていること。